

授業科目 人体機能解剖学特論	科目概要・形式 2単位30時間(15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> 可・不可
科目責任者	李 相潤		
担当者	李 相潤		
1. 科目のねらい・目標 生体を構成する諸器官はそれぞれ合目的に形成されている。各器官が持つ個々の特性は、これらを統制・制御する内分泌・神経系を中心とする生体情報によって恒常的に維持されている。これら各器官系について、肉眼さらには細胞・組織学的レベルの形態学的な相同・相違(比較形態学)から解析を行い、形態の奥に潜む生物学的原則を理解する。とくに運動器の筋組織や骨組織については組織の採取から染色までの過程を観察し、骨組織と筋組織の形態を理解する。			
2. 授業計画・内容 各器官系について、その基本構造に関する英文を抄読すると共に、実際にマクロ(肉眼)およびミクロ(顕微鏡)的に標本を観察・理解し、その形のもつ必然性を学習・理解する。そして基礎研究で用いられている骨組織と筋組織の形態や特性について理解する。 第1回 運動器系Ⅰ：骨・筋・関節の基本構造に関する英文抄読 第2回 運動器系Ⅱ：骨・筋・関節の形態形成に関する英文抄読 第3回 運動器系Ⅲ：骨・筋・関節のマクロ的標本観察 第4回～第5回 循環/神経系Ⅳ：循環・神経系のマクロ的標本観察 第6回～第9回 組織の採取 第10回～第11回 骨組織のミクロ的標本観察 第12回～第15回 筋組織の染色 (HE/ATPase 染色)			
3. 教科書、参考書			
英文文献、ならびに講義・実習のポイントをまとめたプリント、小冊子を配布する。 【参考書】 ・Bloom & Fawcett: 「Concise Histology」、Thomson Publishing、1997年、ISBN 0-412-07971-2 ・A. ポルトマン著 島崎三郎訳: 「脊椎動物比較形態学」、岩波書店、1979年			
4. 成績評価方法 出席状況および課題レポートにより総合的に評価する。			
5. 受講要件 なし			
6. 社会人学生に対する配慮 講義日時については相談に応じる。			
7. その他 出席の際には白衣等を持参すること。Webex または Zoom を使用する。			